



Hewlett Packard
Enterprise

vmware®

Brochure

HPE Synergy with VMware vSAN

HCIの使いやすさに、究極の柔軟性をプラス



vSAN といえば HPE!

自社に最適なサーバーを選べる

vSAN Ready Node ラインアップ!

VMware vSAN™を利用したシンプルな HCI (ハイパーコンバージドインフラ) の実現に、HPE は vSAN Ready Node 認定を取得した幅広いサーバーラインナップでお応えします。コスト重視の仮想化統合から、物理 DB サーバーも混在する統合基盤、VDI 基盤のリニューアルなど、お客様のあらゆる要求に応える最適なプラットフォームをお選びいただけます。

最もシンプルな HCI を、あらゆる要件に最適なプラットフォームで。



HPE vSAN Ready Node **1**

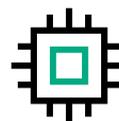
コスト最優先! 新技術を積極的に採用したい方へ



HPE ProLiant DL325
Gen10



コスト
パフォーマンス



1CPUで
最大32コア



100V
サポート

AMD EPYC™ プロセッサを採用した「HPE ProLiant DL325 Gen10」は、1CPUながら32コア/64スレッド、8チャンネルのDDR4メモリ、128レーンのPCI Expressというハイスペックを誇ります。物理CPU数で課金される各種ソフトウェア・ミドルウェアのライセンスコストを削減できるため、導入費用を劇的に改善します。vSAN Ready Nodeのコストパフォーマンスの常識を変えるサーバーです。



HPE vSAN Ready Node **2 3**

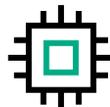
安心と信頼!世界標準サーバーをご希望の方へ



HPE ProLiant DL360/380 Gen10



**世界標準の
安心サーバー**



**高性能
インテルCPU**



**100V
サポート**

第2世代インテル® Xeon® スケーラブル・プロセッサ採用の「HPE ProLiant DL360/380 Gen10」は世界で最も支持されているx86サーバーです。オーソドックスなラックマウントサーバーながら、業界に先駆けてシリコンレベルのセキュリティ技術(Silicon Root of Trust)を実装するなど、先進性にも優れています。vSANシステムに安心と信頼をもたらす「世界標準の安心サーバー」です。

HPE vSAN Ready Node **4**

コンパクト重視!ラックスペースを重視される方へ



HPE Apollo 2000



**省スペース
2U/4ノード**



**コンパクトなのに
2CPU/6NVMe**



**考え抜かれた
筐体設計**



HPE ProLiant XL170r Gen10(1Uハーフワイド)を4ノード搭載可能

「HPE Apollo 2000 System」は、2Uの筐体に2CPUサーバーを4台まで搭載できる高密度プラットフォーム。たった2Uで4ノードvSANシステムを実現できます。コンパクトながら、各サーバーには2つの第2世代インテル® Xeon® スケーラブル・プロセッサと、6個のNVMe/SSD/HDDを搭載可能です。

HPE vSAN Ready Node **5**

統合基盤!物理DBなど他用途も統合したい方へ



HPE Synergy



**物理も仮想も
究極の統合インフラ**



**vSAN 対応
50G Ethernet**



**圧倒的な
スケーラビリティ**

世界初のコンポーザブルインフラ「HPE Synergy」は、サーバー/ストレージ/ネットワークスイッチをスマートに統合した究極のプラットフォーム。従来型のブレードサーバーと違い、50Gbpsの広帯域ネットワークやサーバーあたり最大40本のディスクベイなど、高性能・大容量のvSANシステムを構築可能です。仮想環境だけでなく物理環境も混在できるため、ライセンスコストの関係で仮想化しづらいDBサーバーや全く別のシステムを1BOXに混載できます(詳しくは次ページ)。

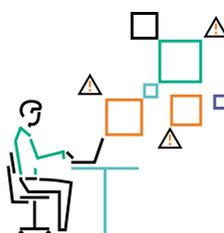
HCIはとても魅力的だが、 ウチの要件にピッタリとは言えない。

「100%仮想化できるならHCIは理想の選択」「でも、実際のところ物理サーバーはなくなる」——ほとんどの企業様では、仮想と物理が混在する環境を運用しています。仮想化できずHCIに集約できないシステムが残ったままでは、運用にかかる手間やコストを減らすことはできません。あなたの会社でも、次のようなことでお困りではないでしょうか。



☑ 仮想化できないアプリケーションやデータベースがある

ライセンス体系により仮想化環境で利用が不利になる商用ソフトウェア、アプリケーションレベルでHAを構成しているミッションクリティカルなシステム、リソース要求が予測可能で仮想化するメリットがないシステム、外部筐体へのバックアップなど、仮想化できない・仮想化しにくい環境が残っていませんか。



☑ ボックス単位で拡張すると過剰投資になってしまう

HCIにはボックス単位で拡張できるメリットがありますが、見方を変えると「サーバーとストレージいずれかのリソースが余剰になるかもしれない」という心配が残ります。もっと柔軟に自由に拡張できたら、と思ったことはありませんか。

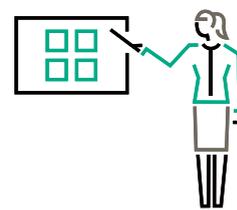


☑ パブリッククラウドと同様に月額費用で利用できないだろうか

オンプレミスの仮想化基盤とパブリッククラウドを併用するケースが増えています。月額・従量制による費用処理にメリットを感じる企業様も多いようです。もし、オンプレミスのIT資産をパブリッククラウドと同様に月額費用で利用できたとしたら、あなたの会社にメリットはありませんか。



その課題、HPE Synergyと
VMware vSANが
スッキリ解決します!



仮想化したくてもできないシステムは、どうしても残る。

「大部分のシステムは仮想化できるが、どうしても仮想化できないシステムは残る」——それが企業様の現実です。でもご安心ください。HPE Synergyなら、仮想と物理が共存する環境を10Uの筐体に集約し、使い慣れたvCenterからハードウェアも含め統合的に運用できます。vSAN環境でありがちなインフラの複雑化を回避できる、業界随一のソリューションにご注目ください。



仮想+物理

HPE SynergyならvSAN環境と物理サーバー環境を1ボックスに集約。サーバーとストレージの組み合わせを自由に構成してお客様に最適な環境を実現します。



コンパクト

HPE SynergyならvSAN構成をより省スペースで実現。内部接続はケーブル不要、サーバー/ストレージ/ネットワークの運用管理をまとめることができ、構成も運用もシンプルです。



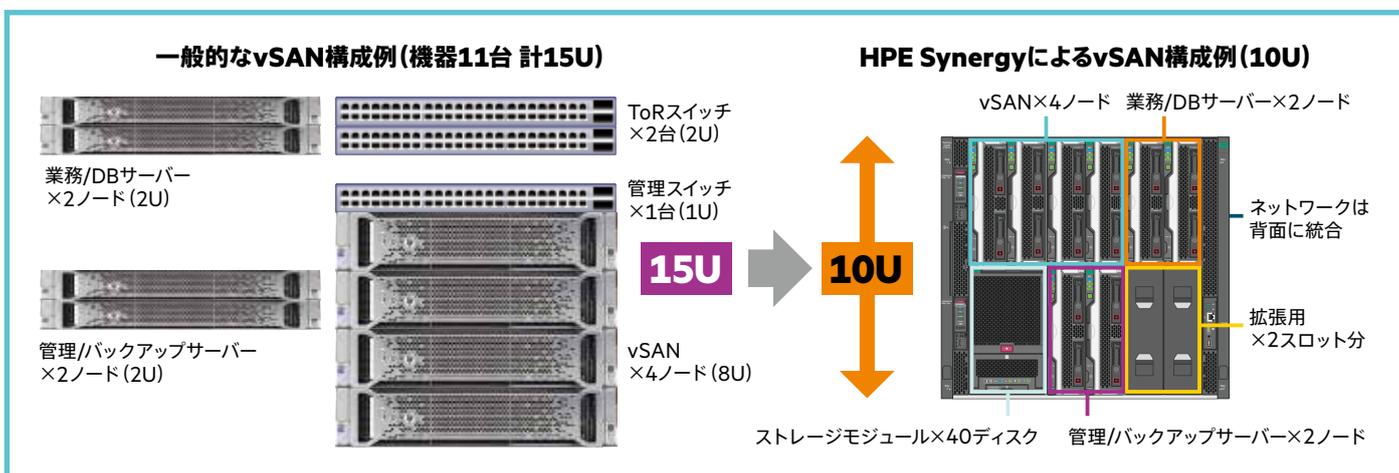
月額費用化

HPE Synergy + vSANはHPE GreenLakeによる月額費用化が可能。従量課金による利用モデルへの移行で、IT資産のオフバランス化にも寄与します。

*オフバランス化の可否については貴社会計会社の判断が必要です。

vSAN環境でありがちな機器構成15UをHPE Synergyなら10Uでシンプルに実現

2Uサーバー4台でvSANを構成した場合、ネットワーク機器、関連システムの物理サーバー、管理・バックアップサーバーを含めた平均的なシステム規模は「15U」となります。HPE Synergyでは「10U」のフレーム内に同等のシステムを集約できるだけでなく、さらに2スロット分の拡張スペースを確保できます。



まるでオーダーメイドの HCI環境のように自由に構成。

「HCIと同等の扱いやすさ、HCIを超える柔軟な構成が採用の決め手」——
HPE Synergy + vSANをご採用いただいた企業様のご評価です。HPE Synergyなら、サーバーとストレージを自由に組み合わせ、お客様固有の要件やワークロードに最適なvSAN環境を構成できます。さらに、将来の予測できない変化にも柔軟に適應できる仮想+物理統合基盤を実現します。



コンポーザー:
リソースの自動検知、構成および再構成するためのマネジメント機能を提供



コンピュータモジュール:
2~4ソケットモデルを用意し多様なワークロードに対応



フレーム:
各種モジュールを収容し、ラックスケールの単一リソースプールを実現



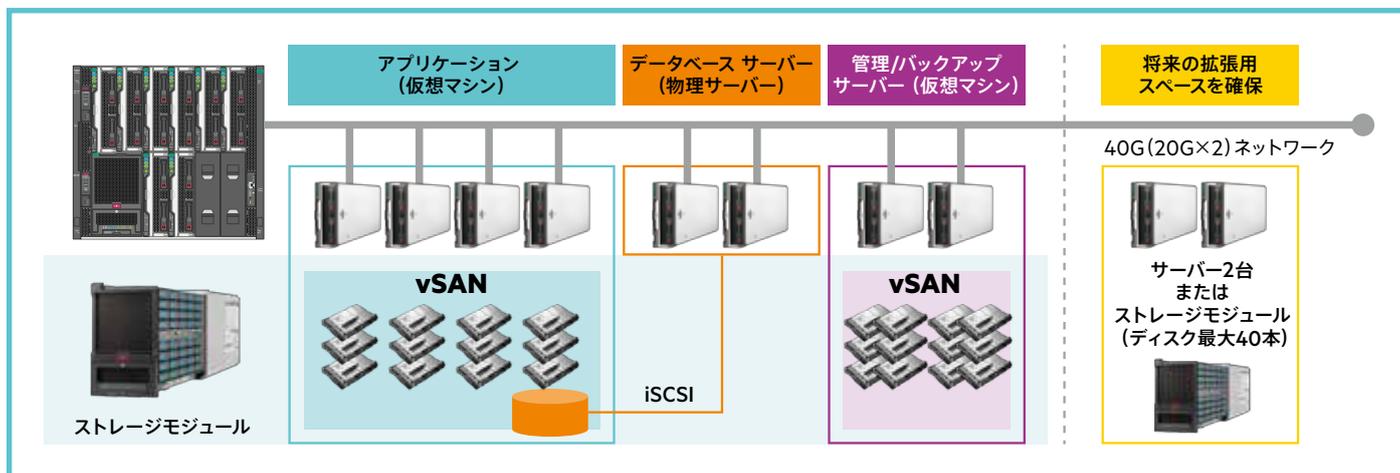
ファブリックモジュール:
ToRスイッチ不要でコアスイッチに接続し、ネットワークの複雑性を解消

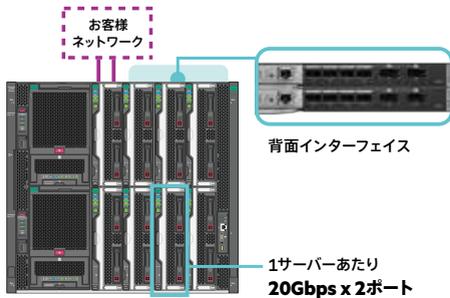


ストレージモジュール:
コンピュータモジュールに対してSDS/DAS/SAN環境を自由に提供

仮想と物理が混在する環境をスッキリ統合 お客様ごとの要求に合わせて柔軟に構成できる

HPE Synergyは、標準的なvSAN構成を10Uのスペースにシンプルかつコンパクトに集約できます。物理サーバー向けのボリュームを、フレーム内に構成できることにご注目ください。さらに、サーバー2台またはストレージモジュール(SSD/HDD最大40本)を増設するスペースも確保できます。





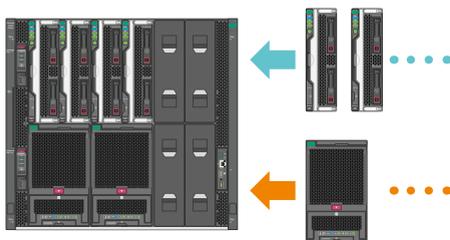
スイッチレス&ケーブルレス 標準的な構成で40Gの帯域を確保

HPE Synergyでは、サーバー同士をフレーム(HPE Synergy 12000フレーム)内部のバックプレーンで接続し、vSAN環境で求められる高速ネットワークを「スイッチレス&ケーブルレス」で実現します。一般的なラックマウント型サーバーが10Gbps×2であるのに対し、HPE Synergyは標準で20Gbpsポートを2本(計40Gbps)の高帯域を確保。50Gbpsポート2本(計100Gbps)で構成することも可能で、全てのストレージトラフィックがネットワークに流れるvSANを安心して構成できます。



ストレージ容量不足の不安なし 最大40本のディスクを1モジュールに

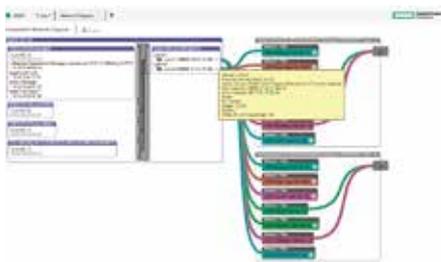
HPE Synergyでは、ユニークな内蔵ストレージモジュールによりvSAN環境を実現します。一般的な1Uラックマウントサーバーが搭載できるSSD/HDDは10本程度。容量不足の心配から割高な2Uサーバーを選択するケースも少なくありません。これに対してHPE Synergyは、1ストレージモジュールあたり最大40本のSSD/HDDを搭載可能。必要になった時点でモジュール単位で容易に増設できますので、容量不足を心配する必要はありません。



◎ストレージ容量が不足したらストレージモジュールを増設
◎サーバーはブレード(コンピュータモジュール)単位で増設

必要になったタイミングで サーバーとストレージを自由に拡張

HPE Synergyは、サーバーとストレージを自由に組み合わせた最適構成が可能だけでなく、必要になった時点でサーバーとストレージを個別に拡張することができます。この柔軟性は一般的なHCI製品にないユニークな特長です。ビジネス成長に合わせて段階的にリソース増強していくことも、M&Aのような予期せぬビジネスの変化にも応えることができます。また、仮想化基盤を運用するHPE Synergyの同一フレーム内に、コンテナや物理サーバー環境が共存できることにもご注目ください。



使い慣れたvCenterから 仮想と物理をここまで可視化

HPE Synergyでは、標準装備の運用管理ツールHP OneViewとVMware vCenter®の連携による仮想・物理環境の可視化が可能です。vCenterのコンソールから、仮想マシン、仮想スイッチ、物理のサーバーNIC、インターコネクト、アップリンク、トップオブラックのスイッチポートまで、すべての接続経路が一目瞭然になります。お客様は、いつも使っているvCenterから物理サーバー環境まで管理できるのです。



“HPE Synergyは、コンピュートモジュール／ファブリックモジュール／ストレージモジュールを自在に組み合わせてシステムを構築できますから、インフラをデザインする際の自由度が非常に高い。この点を評価しました”

— 株式会社寺岡精工 ビジネスサービス部 インフォメーションサービス課 アーキテクト 夏堀貴仁氏

寺岡精工様事例



インフラをデザインする際の自由度が非常に高い

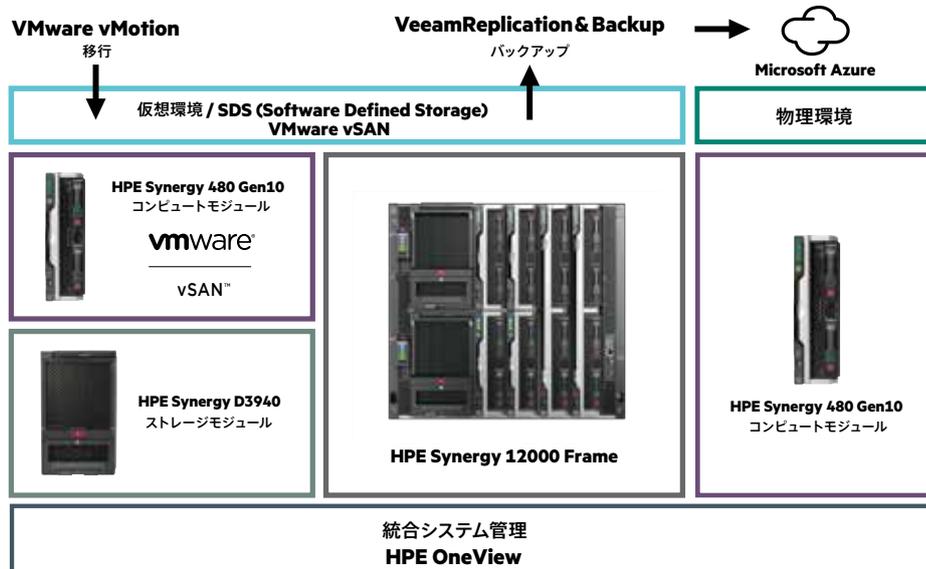
POSレジ、はかり、包装機、ラベルプリンタなどの製造を手がける寺岡精工様が、社内業務システム向け仮想化基盤を全面刷新しました。200VM規模の本環境にHPE Synergy + vSANが採用され、クラウドとオンプレミスを融合させた先進的なインフラを実現しています。

ITの効果

- ◎HPE SynergyとVMware vSANを採用し仮想化基盤を全面刷新
- ◎物理/仮想の統合インフラを実現するとともに、3Tierで構成された旧環境より大幅にシンプル化
- ◎vSANベンチマークでトップスコアを誇るHPE Synergyにより高性能なシステムを実現
- ◎vSAN環境対応のVeeam Backup & Replicationによりバックアップを統合化
- ◎ストレージモジュールへの一次バックアップ+Microsoft Azureへの二次バックアップを実現

ビジネスへの貢献

- ◎クラウドとオンプレミスを適材適所で使い分け投資対効果を最大化
- ◎パブリッククラウドサービスと同等のスピード感をオンプレミス環境で実現
- ◎新たなビジネス要求に対して俊敏な対応が可能に



お問い合わせはこちら
 カスタマー・インフォメーションセンター
0120-268-186 (または 03-5749-8279)
 月曜日～金曜日 9:00～19:00
 (土曜日、日曜日、祝日、年末年始、および5月1日お休み)

日本ヒューレット・パッカード株式会社
 〒136-8711 東京都江東区大島 2-2-1

事例に関する詳しい情報は

<https://h50146.www5.hp.com/products/servers/news/casestudy/teraokaseiko>

© Copyright 2019 Hewlett Packard Enterprise Development LP

VMware、VMware ロゴはVMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。日本ヒューレット・パッカード製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。日本ヒューレット・パッカードは、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱字に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

JPC13818-01 記載事項は個別に明記された場合を除き2019年10月現在のものです。